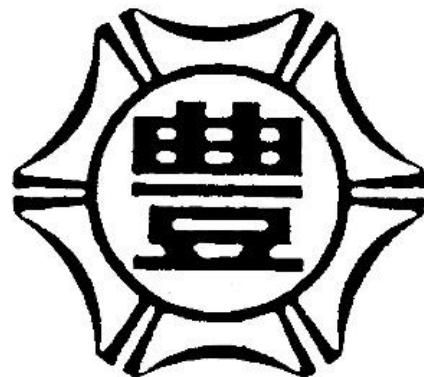


令和 7 年度

「運営に関する計画」



大阪市立豊里南小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立豊里南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

いじめの認知件数には特に大きな変化はなく、早期発見・早期解決に努めているため深刻な事態には至っていない。友達同士の些細なトラブルやコミュニケーション不足による行き違いなどのケースが多く、互いの違いを認め合い尊重し合う集団の育成が必要である。児童による問題行動はほとんどなく、聞き分けがよく、優しい児童が多い。令和6年度小学校学力経年調査における「学校に行くのが楽しい」(86.3%)「自分には、よいところがあると思う」(71.0%)と自尊感情にかかる質問に対しても肯定的に回答する児童が多い。小規模校であるがゆえ、みんなが互いをよくわかっていて優しく接することができるところではあるが、さらに互いを高め合うように集団として向上していくことも必要である。

不登校児童についてはここ数年、特に著しい増減はない。昨年度年間30日以上欠席した長期欠席児童は31名であり、全児童数の1割を超えており、そのうち不登校傾向にある児童は16名と人数は非常に多いが、いじめや友達関係に原因があるというよりは基本的な生活習慣が身についていないことに起因している児童がほとんどである。その証拠に遅刻の数が圧倒的に多く、職員室では毎日、お昼ごろまで登校支援に追われているのが現状である。学校全体として、児童に自らの生活を自覚し、自分で修正していくことができるよう根気強く継続して指導していくことが大切である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和6年度全国学力・学習状況調査については、国語科は全国平均よりマイナス4.7p、算数科は全国平均よりマイナス7.4pと課題が多いが改善はしている。小学校学力経年調査の結果を見ても、第6学年はすべての教科において昨年度よりも上昇しており、第5学年も国語科以外は昨年度よりも上昇している。

個別指導を徹底するように放課後の時間を確保したり、ICTのデジタルドリルやデジタル学習動画を活用したりして「個別最適な学び」の実現を目指して取り組んだ成果がある程度表れている。しかし、宿題以外に自分で考えて学習している児童が極端に少なく、家庭で学習する習慣がしっかりと身についていない。これは、自分の学びを自覚し、苦手なことを克服したり、興味のあることを追究したりする態度が身についていないためであると考える。教科の学習にとどまらず、自立した学習者を育成するために、「個別最適な学び」の実現を目指すとともに、探究的な学びを日常的に授業に取り入れて、学習における「自己調整力」の育成も視野に入れて実践していく必要がある。また、基本的な生活習慣が身についてないことが体力だけでなく学力の定着にも大きく影響しているため、具体的な手立てが必要である。

【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末の活用は順調に進んでおり、令和6年度小学校学力経年調査における「学校の授業以外にどのような形で学習していますか」に対して、すべての学年において、「プリントやドリルを使った学習」よりも「パソコンやタブレットを使った学習」と答える児童のほうが多くなっている。ICT活用が児童の学力にも影響しており、ドリルや動画で自分の苦手なことを繰り返し学習することは大変有効である。文字を書くことは苦手でもタイピングができるという児童もあり、児童の特性に対する支援ともなっている。今年度は生成AIパイロット校としても、より有効な活用方法や児童の学力との関連を明らかにするため、あらゆる場面で端末を活用しながら検証していく予定である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。(R6 86%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を85%以上にする。(R6 81%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R6 71%)
- ・令和7年度の校内アンケートにおける「自分からすすんでいきたいことをしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R6 74%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で課題を決めて学習に取り組んでいますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上に、全くしないと回答する児童の割合を20%以下にする。(R6 37% 28%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。(R6 69%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。(R6 76%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。(R6 69%)
- ・令和7年度末の年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。(R6 100%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- ・令和7年度の校内アンケートにおける「自分からすすんでいさつをしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で課題を決めて学習に取り組んでいますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上に、全くしないと回答する児童の割合を20%以下にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。

大阪市立豊里南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を85%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 令和7年度の校内アンケートにおける「自分からすすんでいさつをしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の充実】 不登校児童に対して、原因や家庭環境などについての情報を学校全体で共有するとともに、定期的に対策委員会を設置し、家庭への働きかけや登校への支援を行う。</p> <hr/> <p>指標 小学校学力経年調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。(昨年度86%)</p>	
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の充実】 生活指導部や児童会を中心に、自分たちの学校生活を見直し改善する機会を設けることにより、学校のきまりを守って安全に過ごそうとする態度を育成する。</p> <hr/> <p>指標 小学校学力経年調査における、「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(昨年度81%)</p>	
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】 特別活動（クラブ・委員会）や児童会活動、係活動などにおいて、自分の役割を自覚し、自分にできることを果たす経験を重ねることで、主体的に活動したり、自信をもってチャレンジしたりする態度を養う。</p> <hr/> <p>指標 小学校学力経年調査における、「自分には、よいところがあると思います」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(昨年度71%)</p>	

取組内容④【2 豊かな心の育成】

人とのつながりやコミュニケーションの大切さを理解することで、自分からすすんでいさつをしようとする社会性を養う。

指標

校内アンケートにおける「自分からすすんでいさつができましたか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(昨年度74%)

大阪市立豊里南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかつた	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で課題を決めて学習に取り組んでいますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上に、全くしないと回答する児童の割合を20%以下にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>3年生から6年生の時間割に週1時間の「自律学習」を設定し、自分の学びの程度を自覚し、自ら計画を立てて学習したり、結果を振り返って調整したりする力を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で課題を決めて学習に取り組むことができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。(昨年度37%) また、全くしないと回答する児童の割合を20%以下にする。(昨年度28%)</p> <hr/> <p>取組内容②【4誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>探究的な学びを展開し、児童一人一人を自立した学習者として育成するための指導法について探っていく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年間6回の授業研究会および討議会を外部講師を招聘して実施し、教員一人一人の指導力向上について、全員が「3」以上の最終評価をつけることができる。</p>	

取組内容③【5健やかな体の育成】

自分の動きを振り返ったり、友達と相互評価したりするなかで、自らの課題を見つけて出し、チャレンジすることで、自身やチームに必要な練習方法や解決方法を考えながら学習に取り組むことができるようとする。

指標

小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。（昨年度69%）

取組内容④【5健やかな体の育成】

保健指導や委員会の取り組みなどを通して、規則正しい生活を送ることの大切さを理解させるとともに、学校だよりや保健だより、学校ホームページや保護者メールなどを通じて、家庭にも基本的な生活習慣の確立を啓発していく。

指標

令和7年度の小学校学力経年調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。（昨年度76%）

大阪市立豊里南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかつた	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【教育DXの推進】 学年ごとの到達目標や活用場面を明確にしながらICT活用を図ることで、学習者用端末を日々の学習用具として文房具のように活用することができるようとする。	
指標 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。（昨年度69%）	
取組内容②【7人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 週に1回のゆとりの日を設定したり、長期休業中に閉庁日を設定したりすることで、教職員にワークライフバランスを意識させるようとする。	
指標 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。 （昨年度100%）	